

NOTICE サポセンからのお知らせ

● 市民活動を「体験する」時間 ちょっと。ボランティア

日時：7月25日(土)午前10時～12時  
 「地域や社会のために何かしたいけれど、何ができるかわからない」。そんな方々とサポセンがいっしょにボランティアに出かけます。  
 場所：NPO法人 アマニ・ヤ・アフリカ事務所  
 参加費：無料  
 定員：10名  
 集合：午前9時半に仙台市市民活動サポートセンター  
 内容：ケニアの職業訓練所で作られた商品を販売するための準備を体験します。  
 受付開始：7月6日(月)から  
 申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター  
 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
 Mail sendai@sapo-sen.jp  
 メールの場合、件名を「体験する時間」として、氏名・年代・住所・TEL・FAXをお知らせください。

● 市民活動サポートセンター 「事務用ブース」使用者募集

使用期間：平成27年9月1日～平成28年8月31日  
 対象：継続的に市民公益活動を行い、市内に専用の事務所を持たない団体(事業者を除く)  
 募集数：3ブース(予定)  
 設備等：机、いす、ロッカー。面積約4平方メートル  
 使用料：月額7,000円  
 申込締切：7月13日(月)※使用団体は、提出書類及び7月下旬開催予定の審査会での説明内容等をもとに選考で決定。  
 申込受付：午前9時～午後5時(土・日を除く)  
 仙台市市民協働推進課またはサポセンで配布する申込用紙にご記入の上、市民協働推進課へ直接申込み。  
 (仙台市ホームページからもダウンロードできます)  
 仙台市URL: [http://www.city.sendai.jp/manabu/shimin/support/1209266\\_2615.html](http://www.city.sendai.jp/manabu/shimin/support/1209266_2615.html)  
 問い合わせ：仙台市市民協働推進課 TEL 022-214-8002 (青葉区二日町1-23 アーバンネット勾当台ビル2階)

● 市民活動サポートセンター「ロッカー」「レターケース」使用者募集

使用期間：平成27年9月1日～平成28年8月31日  
 対象：継続的に市民公益活動を行っている団体(事業者を除く)  
 申込み：サポセンで配布する申込書、団体紹介シート、団体情報登録申込書をサポセン1階窓口にお持ちください。(サポセンホームページからもダウンロードできます)※ロッカー使用者は公開抽選会で決定、レターケース使用者は先着順  
 問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター TEL 022-212-3010

募集内容

貸出/数	使用期間	費用	申込
ロッカー(大) / 10[抽選]	平成27年9月1日～平成28年8月31日	1,200円/月	申込受付期間：平成27年7月6日(月)～24日(金) 午前9時～午後9時まで(日・祝は午後5時まで) サポセンにて受付
ロッカー(中) / 28[抽選]		800円/月	
ロッカー(小) / 80[抽選]		400円/月	
レターケース / 168[先着]		無料	

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは  
 様々な分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- 市民活動の立ち上げ、法人格の取得、団体運営、組織運営などの相談
- 協働についての相談
- 復興支援活動、シニア活動・セカンドライフなどの相談

今月の休館日： 7月8日(水)・22日(水)

今月の表紙

仲間とともに、7月20日「平日夕涼みフェス」の開催に向けてミーティングをする砂子啓子さんです。  
 今回取材をしてくれたのは、情報ボランティア@仙台の学生記者のお2人。砂子啓子さんを取材した内容は、下記ブログにも掲載されています。ぜひご覧ください。  
 ●情報ボランティア@仙台  
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00 / 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌木曜日) 年末年始

HP <http://www.sapo-sen.jp>  
 Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>  
 Twitter @sensapo

「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとと読者アンケートにご協力をお願いします。サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター  
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
 地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ  
 発行日 2015年7月1日  
 編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター  
 デザイン PEACE Inc.  
 編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2015年4月1日～2020年3月31日]

# ぱれっと 7

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2015 No.191

「ぱれっと」には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト

一人の行動から  
大きなネットワークへ

i-くさのねプロジェクト  
代表 砂子啓子  
KEIKO SUNAKO

今なお支援が必要な被災地の実情を知ってもらおうと、地道な情報発信を続けている団体です。仙台在住の主婦らが中心で、震災直後から奮闘しています。代表を務める泉区の砂子啓子さん(41)は震災後、2人の子供を連れ、実家のある佐賀県に一時避難しました。しかし、被災地で不自由な生活を続ける知人らのことが頭から離れません。遠くにいても役に立てることはないかと、佐賀で物資を集めては宮城に送る活動を一人始めました。半年後仙台に戻ると「支援を続ける人、困難を抱えながら暮らす人を支えたい」と活動を発展。大きな支援の輪に育てました。支援者仲間をブログで紹介したり、気分転換につながるイベントを企画したり、「継続と慰労」をテーマに走り続けています。「市民活動などに関心はあっても、一歩を踏み出せない人は多い。理屈にとらわれず、失敗を恐れず、まずは自分で動いてほしい」。夢中で駆けた4年半を噛みしめながら、砂子さんは「動く市民」の力を自ら示し続けます。  
 取材・文：小林奈央(東北学院大学4年)  
 高橋直道(東北大学2年)

i-くさのねプロジェクト

連絡先 080-2773-0181 / Mail [hana.sunako316@gmail.com](mailto:hana.sunako316@gmail.com) / URL [www.kusapro.com](http://www.kusapro.com)  
 団体名は、砂子さんが組合員理事を務める生協「あい(i)コープみやぎ」と、取り組みの「草の根的な広がり」が由来。被災地の今を伝えながら、全国の支援を現場につなぐ橋渡し役を担っています。目下の目標は、7月20日(月・祝)に高砂市民センター(仙台市宮城野区)で開く「平日夕涼みフェス」の成功。ワークショップ・食・音楽などが楽しめる内容で、砂子さんは「普段頑張っている人が肩の力を抜ける時間にしたい」と準備に汗をかいています。

特集

センダイ市民の視点で、地元を伝える

「Speak out about Sendai」





# 特集 センダイ市民の視点で、地元を伝える 『Speak out about Sendai』

暮らしがよくなる街・行きたくなる街仙台を伝えよう！仙实在住の日本人と外国人が一緒になって、従来の観光ガイドブックとは一味違う、仙台の魅力伝えるガイドブックを作成しました。



株式会社ソノベ プロデューサー  
(現在、株式会社創童舎 ソーシャルワークス局 勤務)  
ごとう みつまさ  
後藤光正 さん



仙台市  
市民局市民協働推進部交流政策課主事  
さかい ゆみ  
酒井由美 さん

## 市民の視点で、仙台の魅力を発信しよう

『Speak out about Sendai』(2015年3月発行)は、A5サイズの小冊子。はじめて仙台を訪れる人へ、仙台に住む日本人、外国人市民が撮影し取材した、仙台のお勧めポイント28カ所を紹介しています。各記事にはすべて日本語と英語の文章が併記しており、地元を2言語で語っているのが特徴です。このガイドブックは、印刷物の企画・製作を生業とするかたわら、市民参加型の学びの場「センダイ自由大学」を運営している株式会社ソノベと、仙台市が協働で作りました。

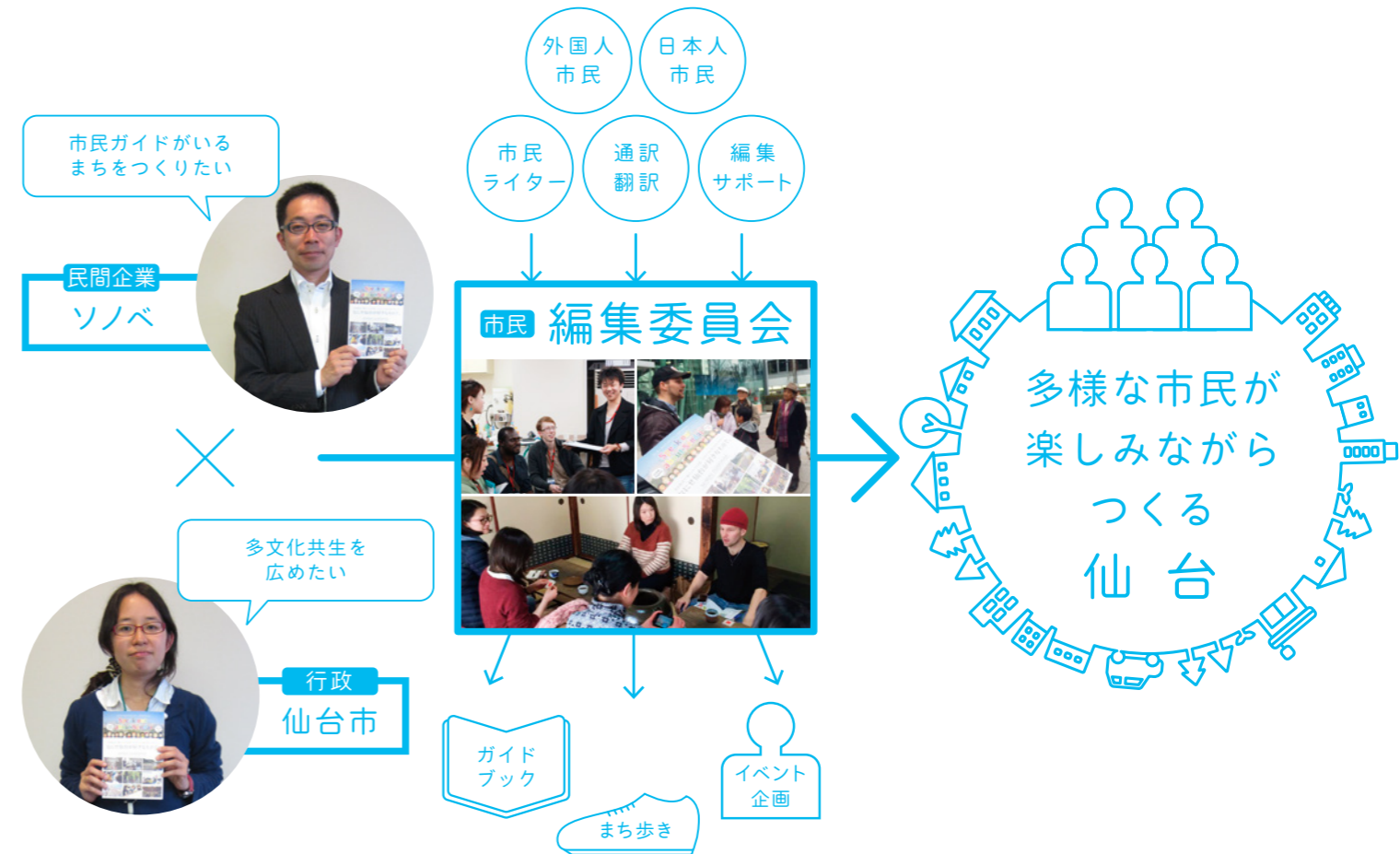
仙台には、約1万人の外国人の方が留学や仕事などの目的で暮らしています。お互いの文化や習慣の理解を深め、外国人も日本人も暮らしやすいまちをつくるためには、まず住民自らが地元のことを知らなければなりません。また、東日本大震災時の経験から、普段からの住民同士のコミュニケーションが大事だということも分かってきました。そこで、仙台に住む日本人と外国人と一緒に、それぞれの視点で仙台の魅力を発掘し発信する、市民参加型のガイドブックを作成することになりました。

## 参加するための入口はいろいろ

2014年4月から翌年3月までの1年間で、ガイドブックの作成に関わった人たちは、日本人245人・外国人62人のべ307人。国籍、年齢、職業も様々です。まず、「どんな冊子を作りたいか」アイデアを出し合うワークショップを4回と、取材、撮影、執筆、翻訳のスキルを学ぶ編集ワークショップを4回開催しました。また、出来上がったガイドブックを片手にまち歩きをするためのルートづくりと、実際に日本人と外国人が中心となって考えたルートを、日本語と英語の両方で案内するまち歩きフィールドワークも実施しました。

取材が好きな方、文章が上手い方、英語が得意な方、それぞれの方々が、いろいろな形で関わりを持てるように工夫をしました。「もちろん、アイデア出しだけでも、まち歩きに参加するだけの関わりでもいいんです。大事なのは、楽しく活動できるということですから」と、後藤さん。制作の過程で参加者の都合に合わせて、誰でも自由に参加できるメニューを数多く用意したことが、たくさんの人々を巻き込むポイントでした。

## 図解 市民の多様な視点、文化、スキルを生かすプラットフォーム



## 地元を自慢する人を増やそう

参加者も、「知らないことがたくさんあった」「もっと仙台のことを知りたくなった」と、取材や制作過程を通じて多くの気づきがありました。在仙外国人を対象とする事業や国際交流活動などを担当する交流政策課の酒井さんは、「外国人や異なる文化をもった人たちと関わることで、暮らしの幅が広がるようになると思います。市民側からのアイデアや提案が形になってまちづくりの企画に参加する人が増えることは嬉しいことです」と言います。民間企業、行政、市民が三位一体となり、意見を出し合い、話し合いを重ね「ゼロ」から作り上げた取り組みは、1冊

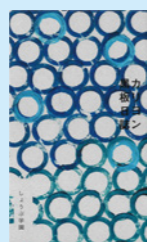
のガイドブックとして形になりました。多様な視点から地元のことを知ることは、自分事として地域に関わるきっかけとなり、仙台を好きな人が増えることにつながります。今後は、市民が主体となって作るガイドツアーの充実、英語以外の翻訳版の作成など、『Speak out about Sendai』を活用し、市民が地元を語る活動へ広がることを期待しています。(取材・文 葛西淳子)

連絡先  
株式会社創童舎 (担当: 後藤)  
仙台市青葉区一番町3-3-19  
TEL 022-263-4420 / HP <http://sendai-guid.com/>

## 『カリヨン黒板日記』

お役立ち本  
しょうぶ学園・著  
山崎浩一 株式会社バルコエンタテインメント事業部・発行

「しょうぶ学園」は、鹿児島県にある障害者支援センターです。敷地内にあるパン工房「ル・カリヨン」(現在の「パン工房 ポンビ堂」)の営業部長も障がい者。彼は、毎日店先に出す黒板にメニューと日誌を綴ります。日誌からは、ここでの生活が彼にとってどれほど素晴らしいかが伝わってきます。学園の創造的な福祉事業の一端を垣間見ることが出来る一冊です。



## 【トハツメ】 ケニアの人たちの自立をサポートしよう！

「地域や社会のために何かしたいけれど、何が出来るか分からない」。そんな方々とサポセンがいっしょにボランティアに出かける企画「ちょっと。ボランティア」が始まります。今回は、NPO法人アマニ・ヤ・アフリカの国際支援活動をお手伝いします。詳しくは、「サポセンからのお知らせ」をご覧ください。



▲2014年12月の「ちょっと。ボランティア」実施風景

## 【イノベーション】 全国のまちづくり事例から、未来の仙台を考える

多様な主体による協働のまちづくりの推進は、サポセンの役割のひとつです。協働の第1歩は「知る」ことから始まります。今、全国各地で、市民活動や、企業CSR、地域活動など多様なまちづくりの取り組みが行われています。サポセンでは、協働によるまちづくりのヒントになるようなフリーペーパーや報告書、書籍などを集めた「まちのわライブラリー」を作りました。市民の皆さんが協働のまちづくりに関する情報に、気軽に触れることができるコーナーです。協働と聞くと難しく感じるかもしれませんが、全国の事例からは、いきいきと活動する地域の人々の姿が見えてきます。「まちのわライブラリー」は、サポセン1階にあります。ぜひお立ち寄りください。



▲全国の多彩なフリーペーパーをそろえました。閲覧のみ可能。